

『家族を超える社会学 新たな生の基盤を求めて』

牟田和恵 編／新曜社 2200円

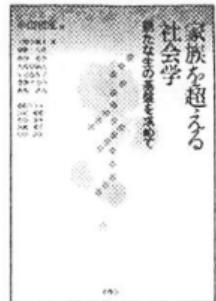
「一対一の男女の対の関係(とその子ども)」という核家族的関係ではない人々の新たなつながりから築きうる「家族」の可能性とは。性愛や血縁のみを家族・親密さの基盤とする必要はないのではという問題意識から「家族」のつながりの根拠と可能性を論じる。

多くの論者がマーサ・A・ファインマンの「ケアの絆」論をよりどころとし、カップルではなく母(ケアする側)と子(ケアされる側)関係を法的な保護の対象とすべきだという。牟田はオルタナティブな「家族」を構想し母と父の非対

称性にも言及。

また若者に浸透する「シェアハウス」やステップファミリーなどの調査から「家族」を逆照射。前者には「家族の甘えを忌避しつつ独りでは得られない『寂しくない』感覚」があるという。家族に求める「アイデンティティ欲求」の代替ができるのかという山田昌弘の提起も価値がある。

「家族のオルタナティブ」と題する日本家族社会学会シンポジウムをもとにした論集。(衣)



(本の価格はすべて税抜きです)